

2012年1月4日

NECネットエスアイ株式会社

2012年社長年頭訓示要旨について

NECネットエスアイでは、本日、社長の山本正彦が、社員に向けて2012年の年頭訓示を行いました。要旨は以下のとおりです。

<2012年年頭訓示要旨>

【中期目標達成へ向け、強い会社へと変わろう】

2011年は、全世界で不安定な年であった。国内では東日本大震災に見舞われ、未曾有の被害を受けた。海外においても、欧州における金融危機やタイの洪水、中東や北朝鮮での情勢などの不安定な要素が多発した。このような中、新興国を含め世界経済は減速し、国内経済はマイナス成長となったと見られている。2012年についても、復興需要があるとはいえ、大きな経済成長は期待できないであろう。その一方で、スマートフォンやタブレット端末が急速に普及し、新たな使い方が広がりつつあるとともに、ネットワークの通信量が増大している。このような成長分野を捉えるためには、お客様の視点で、スピード感を持って新しいニーズに的確に応えることが、ますます重要になっている。

さて、2012年は、いよいよ中期目標の最終年度である。厳しい環境に打ち勝ち、成長を実現するためには、さらに大きく会社を変え、事業力・営業力を強化することが必要である。2010年には、我々の本社が変わった。お客様に近い飯田橋へと移転すると同時に、全社を EmpoweredOffice*化し、成長に向けて攻めるための場を作ることができた。2011年には、上場業種分類が建設業から、情報・通信業へと変わった。建設業をベースとした施工力、ファシリティ・マネジメント力に特徴のある情報・通信業者＝サービス・インテグレータとして自他ともに認められた訳である。そして、今年は、これらの土台の上に、強い会社へと我々自体が変わる年である。

そのためには、個々人のスピード感はもちろん、組織としてのスピード感をさらに高めていくことが必要であり、部門ごとに閉じた「縦型」の情報共有から、全社がお客様との接点を持つ「横型」の情報共有へと変えていく。そのために我々の得意とする ICT を駆使し、情報・通信業の中でも最先端の会社へと変わっていく。

会社を変えるのは一人ひとりの力であり、一人ひとりが、より強い個人への変化を目指してほしい。目先の目標達成に満足せず、常にその先の可能性を追求するチャレンジ精神。自部門を超えた全社目線での積極的な議論。そして、常に責任と役割を明確に持ち一人称で語り合える文化。そして、これらの個の力を一層発揮できる会社へと、組織力の向上をはかり、中期目標を達成するとともに、翌年に控えた創立60周年、新創業の年への基盤を固めよう。

最後に、2012年は辰の年である。全社の力を結集し、昇り龍の勢いで、企業価値を高めていこうではないか。

※ EmpoweredOffice(エンパワードオフィス) :

当社の提供するオフィス改革ソリューション。当社の強みであるICT(情報通信技術)とファンリティ施工力を融合し、より知的で創造的なワークスタイルへの業務プロセス改革を実現するとともに、セキュリティ強化や環境対応力といった社会的責任に応える「働き方」と「働く場」の改革を提案するもの。

私たちNECグループは、
「人と地球にやさしい情報社会をイノベーションで実現する
グローバルリーディングカンパニー」を目指しています。